

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい



横野堤と万葉歌の里をゆく

～難波寺や梶久ゆかりの円徳寺も～

仁徳朝によって築かれた横野堤は万葉集に「紫の根延ふ横野の春野には君をかけつづ驚鳴くも」と詠まれています。紫草の白い花咲く堤の風光明媚な情景を思い描きながら、万葉の世界へ参りましょう。

② 釈翠岩墓所

今から300年程前、享保の頃、翠岩さんという生れつき慈善心の強い人がおられました。本名は松江太郎右エ門と言い、中川村の豊かな農家でした。翠岩さんは中川村や近郷の村人の為に私財を投じて道普請をしたり、川に石橋を11か所も架けたり、貧しい人達へ救米などをされていました。そして晩年は剃髪して住吉屋翠岩と名乗りました。その後、息子・伝兵衛にも先立たれたため、所有していた田畑一町六反歩を村に寄付され、62歳で世を去りました。以後、2月22日を村民の休日と定め、翠岩さんの遺言により、その田地からの所得米を村人たちに平等に施米されて、近年まで約200年以上続けられていました。今も中川財産区として存続し、生野区役所と連絡をしながら財産の管理、運営にあたっています。

③ 難波寺

もと上六の東辺にあった古刹で、聖武天皇が東大寺の大仏開眼供養の為、天竺の僧・波羅門菩薩など海外の高僧を迎えるにあたって難波丘陵の高台に精舎を建立せしめられたことが、寺の始まりとされています。江戸時代から明治にかけて難波寺は「野中の観音」と呼ばれ、大阪市中の人々に親しまれ、春は桃と桜の花見、秋は観月の名所でありました。また、歌舞伎で有名な「茜染野中の隠井」の悪人・梅浜由兵衛による夫婦共謀強盗殺人事件の舞台となった寺でもあります。本尊は行基の作と伝えられる十一面観世音菩薩です。大正14年(1925)、近鉄・上本町駅拡張に伴い、現在地に移転しました。

④ 田島神社

もと東成郡田島村の氏神で、祭神は菅原道真公と少彦名命を祀り、天満宮と呼ばれていましたが、明治42年(1909)に田島神社と改称されました。大正時代の中頃までは境内に太い杉の大木が何本もあって静かな神社でした。社記によれば、明治18年(1885)の淀川大洪水で古記録などが散失し、今は宝物として後陽成天皇宸筆の神写の軸と烏の餅杵一組があります。尚、境内には田島レンズの元祖・石田太次郎翁の碑があります。これは明治末年から昭和40年頃まで、地場産業として栄えた田島のレンズのことで、眼鏡用、光学用ともに日本一の生産量を誇っていましたが、現在では衰退してしまいました。

⑤ 横野神社跡と万葉歌碑

この神社は古くから印地の宮と呼ばれ、河内の大地村の西端にあり、摂津国田島との境に接していました。祭神は農耕の神・印色入日子命です。また、横野神社は延喜式内社で河内国淡路郡六座の一つです。往古はかなり栄えた大社であったようですが、江戸時代の中頃に一時荒廃しました。享保の頃、畿内の旧跡を調査した並河誠所が当地を訪れ、神社の由緒や土地に伝わる古歌などを詳しく説明され、以後、穢れのないように庄屋に言い渡されたそうです。また、この社地の付近は「日本書紀」仁徳紀に記された横野の堤のあった場所であり、太古はこの辺りの橘川(古平野川)右岸にあたり、河水の氾濫と玉造江の潮流を防ぐために築かれた堤防です。平成4年(1992)、社地に古くから伝わる万葉集の歌碑が建立されました。揮毫は万葉学者の犬養孝先生の筆になるものです。
紫の根延ふ横野の春野には君をかけつづ驚鳴くも 詠み人知らず

⑥ 円徳寺

円徳寺は浄土真宗大谷派に属し、本尊は阿弥陀如来です。寺伝によれば、開基はこの地の郷士・上場又三郎正欽という者で、室町時代、足利義尚の麾下に属し、江州坂本において佐々木高頼と戦いましたが、感ずるところあって本願寺の蓮如上人に帰依して僧となり、長享2年(1488)にその邸宅を道場としたのが寺の始まりとされています。元龜・天正の石山合戦の時、本願寺門徒として村人「大地衆」を率いて石山に馳せ参じた円徳寺四代目の了法は織田信長軍との戦いで戦死し、本願寺の顕如より感状を頂きました。以後、円徳寺の歴代住職は顕の字を使うことを許され、了法は顕了という名を与えられました。また、円徳寺は江戸中期の文学者・井原西鶴の「梶久一世の物語」に出てくる梶屋久右衛門の剃髪した寺でもあり、梶屋が寄進した朱塗の梶家具十人前が沢山の宝物とともに残っています。

⑦ 楠正長史跡公園

この場所はもと河内国淡路郡四條村の氏神天神社の境内です。室町時代の初期、大楠公(楠木正成)の孫と言われる楠正長という人が隠れ住んだ場所でもあります。楠正長は、後に本願寺六世の巧如上人に帰依し、名を定願と改めました。定願は一字を建てて勤行し、一族の霊とともに村民を教化し、応仁2年(1468)97歳でこの世を去りました。この公園には並河誠所筆の続古今集の歌碑が平成13年(2001)に建立されました。

霜枯の横野の堤風冴へ入汐遠く千鳥鳴くなり 藤原光俊朝臣

⑧ 巽神社

もと巽、大地の八幡宮と呼ばれた立派な神社でした。その歴史は不詳ですが、おそらく大地の集落ができた中世以前からあるものと思われます。明治40年(1907)の神社合祀令により、巽の四条、西足代、矢柄、伊賀ヶの各氏神とともに、大地の横野神社もここに合祀され、村名を採って新しく巽神社となりました。現在の社殿は鉄筋コンクリート造りで、昭和50年(1975)に建て替えられたものです。尚、この神社の氏子地域は巽全域で、7月15日の夏祭と10月15日の秋祭には、大地や四条、矢柄など旧5か村の4台の地車と、2台の布団太鼓台が曳き出され、大勢の見物人で大変な賑わいを見せます。

① 清見原神社

この社のもと大友村の氏神で天武天皇宮と呼ばれていましたが、明治40年(1907)の神社合祀令に伴い、近隣の四社を合祀し、村名を採って小路神社となりました。その後、祭神の天武天皇に因んで清見原神社と改称されました。近くに吉野見の地名が残っていますが、これは往昔、天武天皇が難波に行宮された時にこの辺りを通られ、吉野はどの方に当たるかと振り向かれた事から起こったと言われ、今も吉野見通りという古い街道があります。



【注意事項】この地図は「大阪あそび歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。**【お問い合わせ】**大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそび歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそび歩」でネット検索を。

大阪あそび歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。